資料 10

葉山町　子ども･子育て支援に関するアンケート
調査結果からの課題について

※調査報告書（資料８）に掲載された結果についてはグラフ等を省略しています。
（カッコ）内の数字は資料８の該当ページを示しています。

１. 父母の就労状況から

＜調査結果から＞

○　未就学児の親の就労状況については、母親で「就労している」が 57.8％、「現在、産休や育休等」の人も併せると、約７割が就労している状況です。父親は「就労している」が 91.6％となっています。【未就学児：問 13（p.12）・問 17（p.15）】

○　未就学児の母親の就労状況を見ると、週当たりの労働日数が５日以上、１日当たりの労働時間が７時間以上との回答がともに６割を超えており、いわゆるフルタイムの労働が主な働き方となっています。【未就学児：問 14（p.12）】

○　一方で、未就学児の母親の希望する働き方を見ると、「現状のままでよい」との回答は 38.2％にとどまっており、変更を希望する人の希望の１日あたり就労時間では６時間が最も多くなっています。【問 15(p.13)】

○　育児休暇について「おおよそ納得できる期間をとることができた」人は母親で 36.0％、父親で 14.8％となっています。男性は、「会社の事情や都合で取れなかった」、「自営業だったので取っていない」、「配偶者が取っていたので取らなかった」、「配偶者または祖父母の親族に見てもらえた」などの理由でとっていない人が「納得できる期間をとることができた」人よりも多くなっています。【未就学児：問 16（p.14）・問 20(p.17)】

＜調査結果から見える課題＞

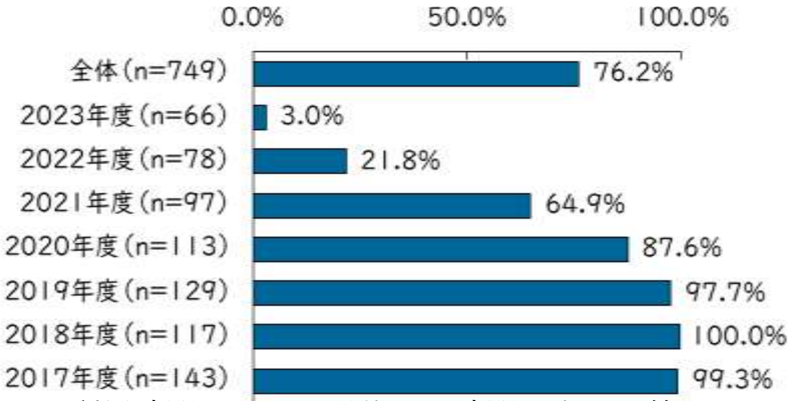
○　共働きしている世帯の方が多くなっており、父母ともにフルタイムでの働き方が主となっています。平日日中の教育・保育の利用にあたっては、令和元年より無償化の制度も導入されたことから、十分な利用枠の確保と、利用しやすい環境の整備が求められます。

○　育児休暇については、母親で３割台、男性ではいまだ「納得できる期間をとることができた」人よりも取れなかった理由を挙げる人の方が多くなっており、育児・休業法改正などの周知を通じて、世帯の意向に沿った育児休暇の取れる環境の整備が求められます。

2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用から

＜調査結果から＞

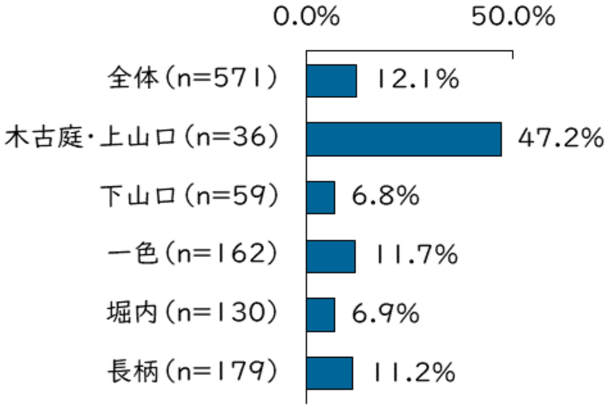
◆年齢別に見た平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」人の割合



○　平日の定期的な教育・保育事業を「利用している」人は全体の 76.2%です。生年度別では 2021 年度から 2023 年度が全体よりも低くなっており、2019 年度以降はほぼ 100%に近い回答となっています。【未就学児：問 21(p. 19)】

○　平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と希望については、利用時間について現状で９時間以上と回答した人は 23.6%となっているのに対し、希望では 27.6%となっています。【未就学児：問 23（p. 20)】

◆地区別に見た定期的な教育・保育の利用地域で「他の市区町村」と回答した人の割合



○　定期的な教育・保育の利用地域について「他の市区町村」と回答した人は全体の 12.1%です。【未就学児：問 24】

○　定期的な教育・保育の利用地域で「他の市区町村」を利用している理由では「教育・保　育の質がよいため」が 47.8%で最も多く、次いで「その他」が 29.0%となっており、「その他」についての記述内容では「転入前から通っているため」などが多く見られます。また、定期的な教育・保育の利用地域の希望について、「町内の事業を利用したい」人は 86.9%となっています。【未就学児：問 25(p. 22)・問 29(p. 26)】

○　定期的な教育・保育を利用していない理由については、利用していないと回答された方が、生年度が 2020 年度より年齢の若い方がほとんどであることもあり、「子どもがまだ小さいため」が 53.1%で最も多く、次いで「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」が 23.2%、「利用する必要がない」が 22.6%などとなっています。【未就学児：問 26（p. 23)】

○　病気やケガ、その後の療養等で平日の「定期的な教育・保育事業」が利用できないときの対応について、母親、父親、親族・知人以外の回答では「葉山にこにこ保育園の病後児保育事業を利用する」が 5.2%で最も多くなっています。【未就学児：問 27(p. 24)】

○　定期的な教育・保育事業の利用意向については、「認可保育所」との回答が 37.2%で最も多くなっています。【未就学児：問 28(p. 25)】

＜調査結果から見える課題＞

○ 令和元年度より導入された、いわゆる「教育・保育の無償化」に伴い、３～５歳の利用率は 100%に近い状況となっています。０～２歳の利用状況についても、母親の就労状況がフルタイム勤務である人の割合なども鑑みると、今後も引き続き利用意向は高まるものと考えられます。

○ 本町の教育・保育の施設を利用している人は 86.7%、利用意向では 86.9%と近しい結果となっています。地域ごとの施設の有無等による影響や、葉山町特有の地勢などの影響も考えられるため、近隣自治体との連携を高め、町の施設のあり方を検討していくことも重要です。

○ 病気やケガ、その後の療養等で平日の「定期的な教育・保育事業」が利用できないときの対応で、母親、父親、親族・知人以外の回答では「葉山にこにこ保育園の病後児保育事業を利用する」が最も多くなっており、病児・病後児保育についての対応は引き続き検討が必要です。

3. 不定期の教育･保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用から

＜調査結果から＞

○ 保護者の私用、通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業についての利用状況では、「幼稚園の預かり保育」が 15.2%、「一時預かり」が 14.0%などの利用が見られます。【未就学児：問 35(p. 31)】

○ 保護者の私用、通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業を「利用していない」理由については、「利用する必要がない」以外では、「利用料がかかる・高い」が 18.5%、「事業の利用方法【手続き等】がわからない」が 13.9%などとなっています。【未就学児：問 36(p. 33)】

○ 保護者の私用や通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用できる事業を「利用したい」人は全体の 55.1%となっています。【未就学児：問 37(p. 34)】

○ 宿泊型ショートステイについては、「利用したい」人は全体の 15.1%となっています。【未就学児：問 39(p. 36)】

＜調査結果から見える課題＞

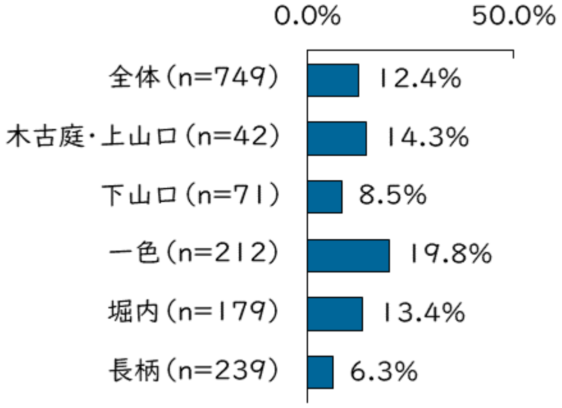
○ 保護者の私用や通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用できる事業を「利用したい」人は全体の半数を超えていますが、利用状況では、「幼稚園の預かり保育」や「一時預かり」が多いものの１割台にとどまっています。「利用する必要がない」以外の「利用していない」理由では、「利用料がかかる・高い」や「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が１割台の回答を集めており、利用条件等の周知が求められます。

4. 地域子育て支援拠点事業から

＜調査結果から＞

○ 葉山町の地域子育て支援拠点である「子育て支援センターぽけっと」について、「概ね希望通りに利用できている」との回答は全体の 12.4%です。地域別に見ると、長柄地区の 6.3%や下山口地区の 8.5%に比べ、一色地区では 19.8%と多くなっています。【未就学児：問 30(p. 27)】

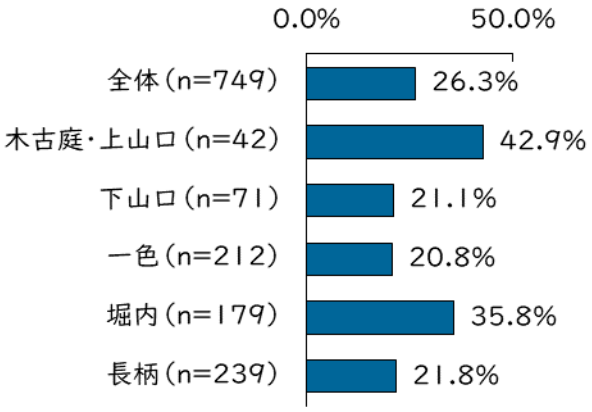
◆地区別に見た「子育て支援センターぽけっと」を「概ね希望通りに利用できている」と回答した人の割合



○ 「子育て支援センターぽけっと」を利用できていない理由については、「あまり必要性を感じない」が 28.0%で最も多くなっています。地区別に見ると、下山口地区、一色地区、堀内地区では「定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない」が最も多く、長柄地区では「自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便」が最も多くなっています。
【未就学児：問 31(p. 28)、地区別の上位３回答について次ページに表を掲載】

○ 児童館について、「概ね希望通りに利用できている」との回答は全体の 26.3%です。地区別に見ると堀内地区では 35.8%などと、全体と比べ多くなっています。【未就学児：問 32(p. 29)】

◆地区別に見た児童館を「概ね希望通りに利用できている」と回答した人の割合



○ 児童館を利用できていない理由については、「あまり必要性を感じない」が 30.6%で最も多くなっています。
【未就学児：問 33(p. 29)】

◆地区別に見た「子育て支援センターぽけっと」を利用できていない理由

【上位3回答、単位：％】

地区	回答者数【n】	１番目	２番目	３番目
全体	653	あまり必要性を感じない	定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない	自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便
		28.0	26.6	25.1
木古庭・上山口	36	子育て支援センター自体は知っていたが、そういった事業をやっているのを知らなかった／あまり必要性を感じない／定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない／自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便／実施している日程や時間帯が希望と合わない【以上同率】		
		19.4		
下山口	65	定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない	あまり必要性を感じない	料金が高い
		29.2	23.1	23.1
一色	169	定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない	あまり必要性を感じない	料金が高い
		34.3	30.8	18.3
堀内	154	定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない	自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便	あまり必要性を感じない
		32.5	31.2	22.7
長柄	223	自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便	あまり必要性を感じない	定員に空きがないなど、利用したいときに利用できない
		37.7	32.3	17.5

＜調査結果から見える課題＞

○　葉山町の地域子育て支援拠点である「子育て支援センターぽけっと」について、「概ね希望通りに利用できている」との回答は全体の１割程度ですが、拠点に近い一色地区が全体より多い回答になっているのに対し、長柄地区は少ない回答となっています。また、地区別に見た利用できていない理由でも、長柄地区は「自宅から遠い、駐車場が少ないなどで不便」が全体よりも多くなっており、地域性が利用の妨げになっていることがわかります。

○　児童館については全体の約４分の１程度が「概ね希望通りに利用できている」と回答しています。利用できていない理由については、地域差はあまり見られません。

5. 放課後の過ごし方から

＜調査結果から＞

○　小学生の放課後の過ごし方については、「自宅」が 78.9％で最も多く、「習い事」の 61.0％とこの２項目が半数を超えて多くなっています。「放課後児童クラブ」との回答は 18.9％です。【小学生：問７(p.47)】

○　放課後児童クラブを利用していると回答していない人の理由については、「特に利用する必要がない」が最も多いものの、それ以外の理由としては「利用するための条件を満たしていなかった（条件がよくわからない)」や「お子さんが行きたがらない」が多く挙げられています。【小学生：問８(p.48)】

○　小学１～４年生の、２学年上がった後の放課後の過ごし方の希望をたずねたところ、「自宅」と「習い事」が６割台で多くなっている点は現状と変わらないものの、「放課後子ども教室」や、「学校【校庭】」、「祖父母宅や友人・知人宅」「放課後児童クラブ」、「公園」などが２割台となっています。【小学生：問９(p.50)】

○　未就学児の、小学校に進んだ時の平日の放課後の過ごし方をたずねたところ、「自宅」や、「習い事」よりも、「放課後児童クラブ」との回答が 45.4％で最も多くなっています。【未就学児：問 41(p.39)】

○　小学生の、町で実施に向けた検討をしている「放課後子ども教室」については 72.8％が「利用したい」と回答しており、「放課後子ども教室」に期待することにでは「放課後のこどもの安心・安全な居場所」が 80.0％で最も多くなっています。【小学生：問 12(p.54)・問 14(p.55)】

○　小学生本人に「児童館」について「知っていて、遊びに行くことがある」と回答した人は全体の 33.0％です。「知っていて、遊びに行きたいけど、あまり行っていない」「知っているけど、遊びに行きたいと思わない」と回答した人の、その理由については「家とか他の場所にいたほうが楽しい」、「家や学校から遠い」、「行ってもお友達があまりいない」が３割台となっています。
【小学生：問 17(p.58)・問 18(p.58)、児童回答】

＜調査結果から見える課題＞

○　放課後児童クラブの利用は本アンケートでは全体の１割台となっているものの。小学１～４年生の２学年上がった後の放課後の過ごし方の希望では２割台となっています。また、未就学児の小学校に進んだ時の平日の放課後の過ごし方では４割台で最も多くなっており、今後の需要の高まりが予想されます。

○　放課後児童クラブを放課後の過ごし場所に選ばなかった人の理由では、「利用するための条件を満たしていなかった（条件がよくわからない)」や「お子さんが行きたがらない」が挙げられており、利用しやすい環境の整備が求められます。

○　町で実施に向けた検討をしている「放課後子ども教室」については７割が「利用したい」と回答しており、安全・安心に過ごせる場所への期待の高さがうかがえます。

○　小学生本人の児童館の利用については、「知っていて、遊びに行くことがある」「知っていて遊びに行きたいけど行けてない」が全体の半数を超えており、遊びに行きたいと思える場所になっている一方、知っているが行っていない・行きた

いと思わない理由では、「距離の遠さ」のほか、「行っても友達がいない」「家や他の場所にいた方が楽しい」といった点などが挙げられています。

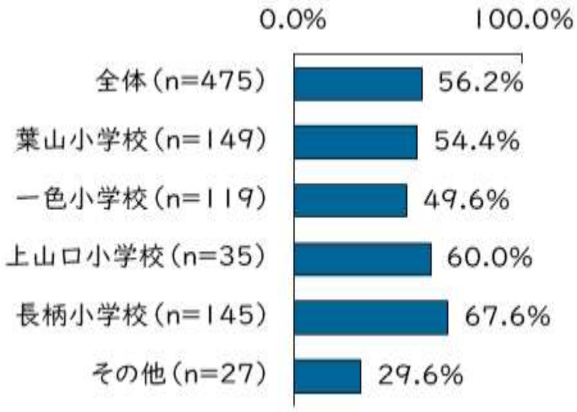
6. 小学生の土日や長期休暇の過ごし方について

＜調査結果と調査結果から見える課題＞

○　小学生の放課後児童クラブの長期休暇中の利用希望については、「利用したい」との意向が 56.2％と半数を超えて多くなっており、高い意向がうかがえます。地区別に見ると、長柄小学校の「利用したい」が 67.6％と多くなっています。【小学生：問 11（p. 53）】

○　未就学児の、小学校に進んだ時の土日や長期休暇中の希望する過ごし方については、「自宅」が最も多いものの、「放課後児童クラブ」は 20.3％、「放課後子ども教室」は 7.6％と一定のニーズが見られます。【未就学児：問 42（p. 39）】

◆地区別に見た放課後児童クラブを長期休暇中に「利用したい」人の割合



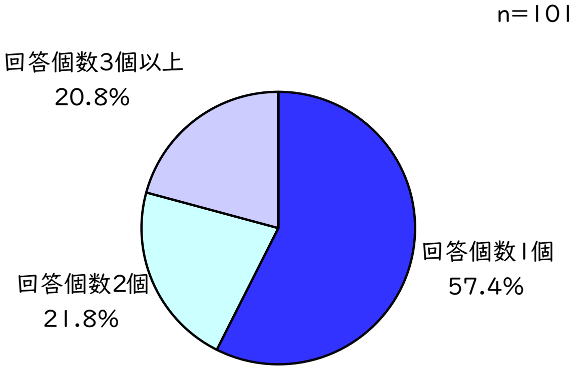
7. 子どもの貧困について

＜調査結果と調査結果から見える課題＞

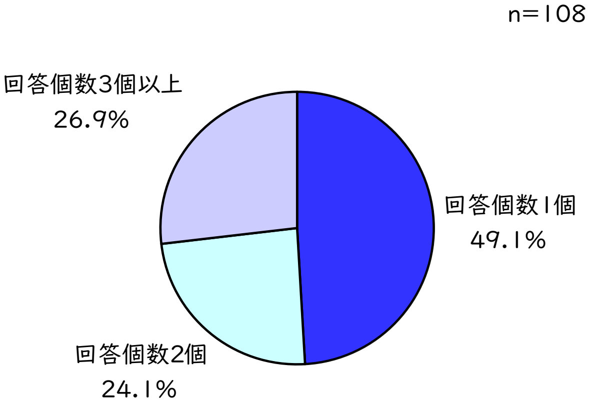
○　経済的な困窮の状況について回答の最も多かったものは、未就学児・小学生、いずれも「習い事に行かせられなかった」となっています【未就学児：問 10（p. 8）、小学生：問 4（p. 44）】。すべての選択肢で 1 割以下の回答ですが、この問に 1 つでも○をつけた回答者のうち、回答個数が 2 個以上だった人はいずれも 4 割を超えており、貧困を感じている世帯に対し、様々な方面からの支援が必要であることがうかがえます。

◆経済的な困窮の状況について回答があった人の回答個数

【未就学児】



【小学生】



８. 町の施策に対して

＜調査結果から＞

○　未就学児の葉山町の子育ての環境や支援への満足度については、“満足度が低い【１または２】”との回答が未就学児で 31.2％です。また、小学生の町の放課後の過ごし方に関する支援策への満足度については、“満足度が低い”との回答は 39.6％となっています。【未就学児：問 43(p.40)、小学生：問 16(p.57)】

○　周囲【身近な人、行政など】から子育てにあるとよいサポートとしては、未就学児と小学生では選択肢が一部異なっているものの、「親の体調が悪い時や急な用事ができたときに子どもを預けられる場所がほしい」が最も多くなっています。また、未就学児の葉山町の子育て環境や支援への満足度で“満足度が低い【１または２】”と回答した人は、「親の体調が悪い時や急な用事ができたときに子どもを預けられる場所がほしい」との回答は、全体よりも多くなっています【未就学児：問 12(p.11)、小学生：問６(p.46)】

◆満足度別に見た周囲【身近な人、行政など】から子育てにあるとよいサポート

【満足度が低いは1・2、どちらでもないは3，満足度が高いは4・5とします】

【未就学児】

	回答者数【ｎ】	相談よりも気軽に愚痴などを聞いてもらえる相手や場所がほしい	他の子育て世帯と情報交換や交流ができる機会がほしい	悩みや困りごとができたときに、自宅に話を聞きに来てほしい	親の体調が悪い時や急な用事ができたときに子どもを預けられる場所がほしい	町の子育て向けの事業に参加したいので実施する場所を増やしてほしい	スマートフォンへの通知などによる情報提供をしてほしい	その他	不明
全体	749	14.2	21.9	2.3	57.5	16.0	19.4	6.0	20.6
満足度が低い	234	14.5	19.7	2.6	68.4	19.2	20.9	12.8	12.4
どちらでもない	293	14.0	23.5	1.0	58.4	16.4	19.1	2.4	19.5
満足度が高い	212	13.2	21.7	3.8	45.8	12.3	18.9	3.8	30.7

○　子育てをする上での困りごとについて、未就学児と小学生では選択肢が一部異なっているものの、いずれも「子育ての出費がかさむ」が最も多くなっています。
２番目に多い項目では、未就学児は「一人になれる時間や自分のやりたいことをする時間がない」であるのに対し、小学生は「子どもの教育」と、時期ごとの困りごとがうかがえます。また、どちらも３割を超えた項目としては「子どもの体や心の育ち」が挙げられます。【未就学児：問 11(p.9)、小学生：問５(p.45)】

○　未就学児の町の中で気軽に相談できる相手・場所の中で、親族や友人・知人を除くと、幼稚園や保育園の職員との選択肢が多くみられます。地区別に見ると、長柄地区では保育園職員が 35.1％と全体と比べて多く、子育て支援センターぽけっと・児童館については、堀内地区が 24.0％、一色地区が 19.3％となっており、下山口地区や長柄地区などよりも多くなっています。【未就学児：問９(p.7)】

◆地区別に見た町の中で気軽に相談できる相手・場所の中【選択肢抜粋】

	回答者数【n】	幼稚園職員	保育園職員	子育て支援センターぽけっと・児童館	民生委員・児童委員	町で活動しているNPOなどの民間の団体	かかりつけの医師	町子ども育成課
全体	749	23.0	26.4	17.5	1.1	1.6	13.5	10.8
木古庭・上山口	42	16.7	23.8	14.3	2.4	0.0	11.9	19.0
下山口	71	19.7	28.2	11.3	0.0	0.0	9.9	5.6
一色	212	25.9	21.7	19.3	0.0	1.4	16.0	9.4
堀内	179	26.3	20.7	24.0	1.1	1.7	11.2	10.1
長柄	239	19.7	35.1	13.4	2.1	2.5	14.6	13.0

○　町で実施している事業について、「利用したことがある」人と、「今後利用してみたい」人を“利用意向がある”としてみると、[プレママ＆プレパパ教室]が 33.5％、[離乳食教室、すこやか育児教室、２歳児教室]が 51.3％、[子育ての総合相談窓口（町子ども育成課）]が 48.0％、[教育相談窓口（教育委員会学校教育課）]が 34.1％、[葉山町発行の子育て支援情報誌『葉みんぐ』]が 53.6％となっています。【未就学児：問 34(p.30)】

＜調査結果から見える課題＞

○　葉山町の子育ての環境や支援への満足度について“満足度が低い”が、未就学児・小学生ともに３割台見られ、中でも小学生では“満足度が高い”が 8.1％にとどまっており、環境や支援の改善が必要です。

○　周囲【身近な人、行政など】から子育てにあるとよいサポートでは、未就学児・小学生ともに「親の体調が悪い時や急な用事ができたときに子どもを預けられる場所がほしい」が多く、また“満足度が低い”回答者はより多い意向となっていることから、重点的な取組みが求められます。

○　子育てをする上での困りごとについては、未就学児・小学生ともに「子育ての出費がかさむ」が最も多くなっており、貧困世帯に限らず、子育て支援においては主要な支援となっています。

○　親族や友人・知人を除いた気軽に相談できる場所や人では、幼稚園や保育園の職員が挙げられており、また、子育て支援センターぽけっとから近い堀内地区や一色地区では回答が多くなっており、行きやすい場所に施設があるかどうかが重要であることがわかります。

○　町で実施している事業の利用意向については、葉山町発行の子育て支援情報誌『葉みんぐ』が最も高く、約５割となっています。町で実施できる事業をさらに広く周知し、子育ての環境や支援への満足度を高める工夫が求められます。